



特277
959

特277-959
76W10900

鹿子木員信著

皇國と亞細亞

大亞細亞協會發行

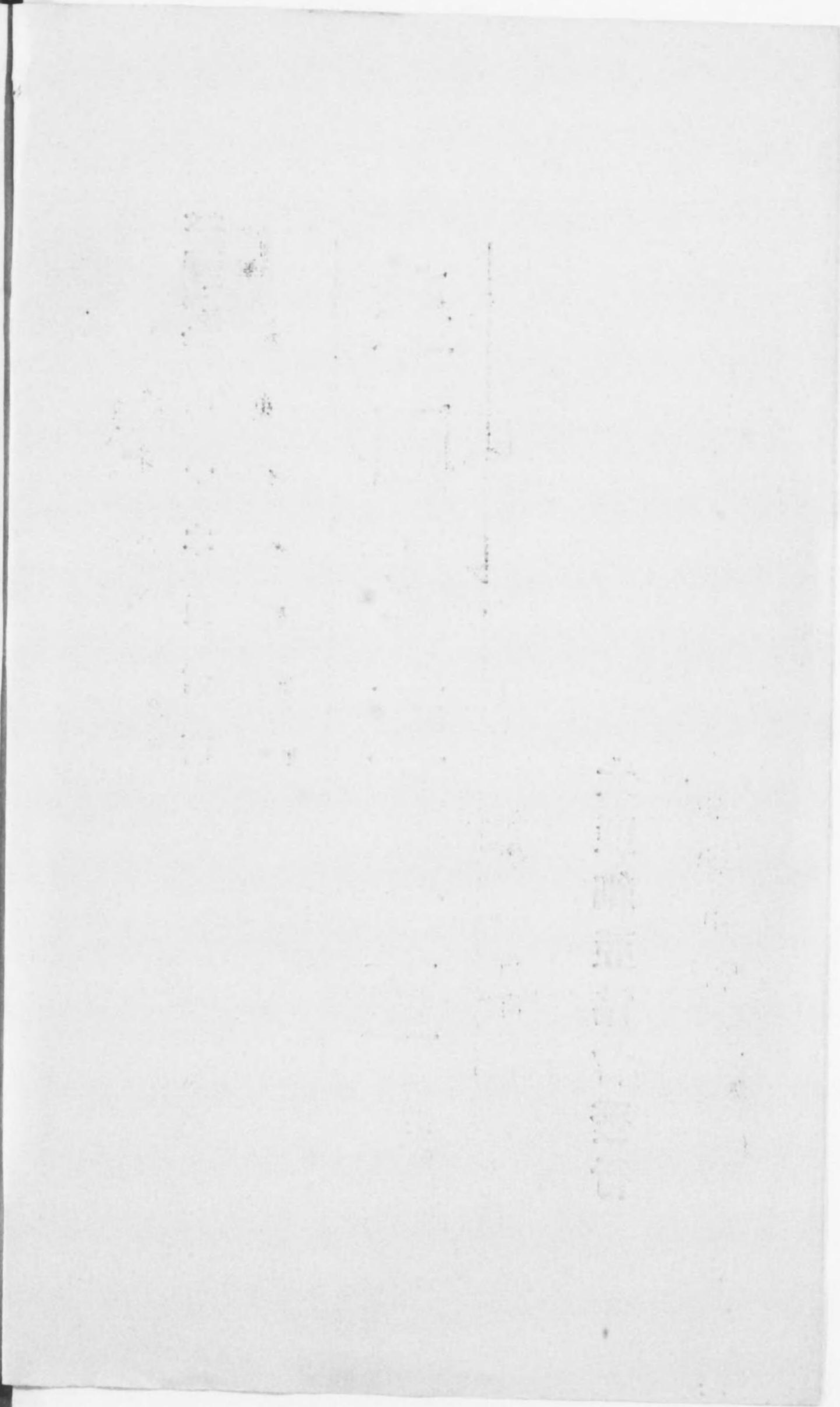
始





皇國
と
亞細亞

九文
大學
教博
授士
鹿子木員信著



76W10900



皇國と亞細亞

文學博士
九大教授

鹿子木員信

一
亞細亞の空、亞細亞の海、亞細亞の地、亞細亞の心、——これ實に、嘗て我が祖國日本を擁せる搖籃であり、また今日皇國日本を圍む環境である。

二

云ふまでもなく亞細亞は、決して皇國日本の生みの親では無い。若し強いてこれを名づくべくば、それは寧ろ乳母とも云ふべきもの。しかも、善かれ悪かれ、日本は、過ぐる二千年の久しき、主としてこの亞細亞に抱かれはぐくまれて生ひ立ち來れるものである。

一

その漸く長じて「皇國日本」の自覺にまで生長發展しつゝある今日、その獨自一己の面目に基き、その獨特の世界史的使命遂行の門出に際し、その第一の着手が、實に、此の亞細亞にあるべきことは、凡ての運動の原則たる「近きより遠きへ及ぼす」理について見るも明かである。日本の世界史的使命遂行の第一歩は、實に、その搖籃にしてまたその乳母たりし亞細亞に對する「報恩」の行に存する。

三

亞細亞に對する日本の報恩、皇國日本の世界史的使命遂行の第一歩は、實にこゝにある。問題は、實に此の報恩の内容、その目的、手段方法の如何に存する。併かもこの報恩の實を完ふするが爲めには、必然、この報恩の對象たる亞細亞の特質、及びその現状を明確に把握せねばならぬ。抑も今日、亞細亞はいかなる姿の下にあるのであらう。

四

數千年の長きに亘り亞細亞精神に一大源流を貢獻し來れるものは、實に印度であつた。やまとこゝろは、實に、印度精神より、佛教の姿に於て精緻微妙なる心理學的考察、幽玄深遠なる形而上學的精神を學び來つた。やまとこゝろの深遠は、印度精神に負ふ所、決して少々では無い。

然るにその印度は、今日、如何の態にある。「印度不安」(Indian unrest)の語は、今日殆んど、辭書にさへこれを見出し得る程の成語となりつゝある。實にこの「印度不安」の熟字こそ、少くもこの數十年の印度の實狀を、最も適確に表現する言葉なのである。今日生ける世界人類の中、最も崇高々貴にして、菩薩の理想に近きガンヂの再三再四の入獄、斷食は、實に我が同胞印度三億の生民の不安動搖亂の焦點、象徴とも見るべきもの、今日の印度は、大英帝國の Pax Britannica の保證にも拘らず、不安動搖の巷である。

五

更に眼を轉じて支那を見よ、この嘗ては亞細亞の凡ての精神的源泉を抱擁せる亞細亞

精神の海とも云ふべき生民四億を擁する支那は、今日、如何の態にある。そは實に、一定の成心の下に、陰に陽に日本に對する支那の主張を支持擁護せんとするリットン調査團をして尙ほ「中國國民黨は、今や其政治的及經濟的再建の計劃を實行するの用意成れるも、内的不和、私的軍隊を有する諸將領の定期的叛亂及共產主義の脅威の爲めに、これを實行するを得ざりき。實際に於て中央政府は、幾度となくその生存そのもの、爲めに、戦ふべく餘儀なくせられたり。」調査團報告書第一章、「中央政府の樹立」と言ひ、また「政治的擾亂、内亂、社會的及經濟的不安及びその結果としての中央政府の羸弱は、一九一一年以來の支那の特徴にてありき。……此等の状態にして改善せられざる限り、そは、世界平和に對する脅威にしてまた世界的經濟沈滞の一原因たるを失はざるもの也。」第一章「近代支那の發展」と誌るさしめてゐる。而してそは實に聯盟調査團が昭和七年

三月中旬より七月下旬に至る滯亞當時の状態の極めて抑遜せる描寫である。

その後の支那状態の發展には、明かに、リットン調査報告書の「遷善」の期待を裏切るものがある。去る昭和^七年八月六日、汪兆銘の、中央政府行政院長の要職を抛つて外遊

の途につきし以來、さらでだに微弱なる中央政府の権力は、愈々その崩壞の途を辿りつつある。その威令の及ぶ所は、江蘇、浙江、安徽、湖北、江西の一部等、主として、長江流域の數省を出でない。山東省は、韓復榘と劉珍年の抗争を見た。四川省は、今や劉之輝軍と劉相軍との對峙の中に暮れんとしつゝある。貴州省にありては、前省首席毛光翔は、現任首席王家裂を驅逐し、貴陽を占領して、省の主權を把握せんとしつゝある。廣東は殆んど、中央政府の制を受けざるの態度に出でつゝある。而して此の間、共產軍は、或は江西、湖北、河南、福建等に進出し、リットン報告書の指摘するが如く、實に「國民政府の現實的競争者と成るに至つた」第一章「支那共產主義の特徴」。

加之、支那の環境は、西よりする西藏軍の進出、西北よりするソキエト・ロシヤの膨張により、積次崩壞の過程を辿りつゝある。

支那の混亂は、單に、以上説けるが如き、地方的権力者たる軍閥將領の抗争と、邊境の擾亂にのみ止まらない。進んでその生活そのもの、甚しき不安を意味する。リットン報告書は、滿洲事變以前の東三省の内政を簡叙して、次の如き記述を爲してゐる。

「右の事實は、約二十五萬に上る大常備軍の維持せられ、また二億弗(銀)以上を費したりと傳へらるゝ大兵工廠の保持せられ居ることを説明するもの也。軍事費は全經費の八〇%に達したりと推計せられ、その殘額は、以て、行政、警察、司法及び教育の費用を支辨するに足らず、國庫は、官吏に適當なる俸給を支給する事能はざりき。凡ての權力は、少數軍閥の手に存せるが故に、官職は彼等の手を通ふしてのみ得られたりき。かゝる状態の必然の結果として縁邊援引、腐敗、惡政は跡を斷たず。本調査團は、かかる惡政に對する甚深の不滿のあまねく瀰漫するを見たり。しかも如此状態は滿洲にのみ特有なるものにあらず。蓋し、支那の他の部分に於ては、これと同様な事、否寧ろこれより惡き状態の存すれば也」(第二章、「軍隊、全經費の八〇%を占むる軍費」)而して、かくの如きは、實に、寧ろ滿腔の好感を以て現代的支那の「健全なる」發展を誇張せんとするリットン調査報告書そのもの、記する所である。

支那の現状は、これを何れより見るも甚しき不安、混亂裡にあることは、最早、蔽ふべからざる事實である。

六

亞細亞の山、あのヒマラヤは、實に、この「印度不安」「混亂支那」の象徴たるかの如く、西の方、アフガニスタン荒涼の地域に起り、印度の北天を劃し、蜓々東に延びて支那の四川、雲南の境に及びて、亞細亞の空にそゝり立つてゐる。その標高に於て我が國山岳の雄富士の三倍、歐羅巴のアルペンに比べて尙ほ二倍強の峻峰數十を包含するこの世界第一の山彙、雄渾無比のヒマラヤ連峯は、その雄渾博大と云ふ點に於て、實に亞細亞そのもの、表現である。併かもこの雄渾莊大のヒマラヤは、親しく、その氷雪を以て蔽はるゝ岩壁の肌に觸れ、近くその荒きいぶきに近づける者の知ることく、決して永遠靜寂の聖者では無い。そは寧ろとこしへに怒り、荒び、猛り狂ふ惡魔である。その美はしき雪の肌は、紺青の晴天の下、あの印度の赫々たる熱帶的烈日の直射を受けて、宛かも熱砂の如く熱する時、印度洋大瀛の水を湛ふる黒風白雪のモンソンの嵐は、これを襲ふて、これを堅硬鐵の如き氷壁に變へつゝある。その山貌は、黒風白雨、濃霧、吹雪の

顔蔽ひをかぶりて、變怪出沒、暫らくもその常住の相を留めない、ヒマラヤは宛かも生きも、如くに常に動きつゝある。これを、歐羅巴アルペンの明朗透徹、そのとこしへに靜かなる姿を、紺青明澄の山湖に映つすに比べて、何たる相違であらう。而して歐羅巴アルペンが、その永遠常住の相を以て、歐巴羅の玲瓏透徹の精神の象徴であるが如く、亞細亞のヒマラヤは、その雄渾とその動亂を以て、正に亞細亞流動精神の象徴である。若し歐羅巴を以て既に完成せる世界 *eine gewordene Welt* と云ふべくは、亞細亞は正に成りつゝある世界 *eine werdende Welt* である。

皇國日本を包む亞細亞の世界は、實にかくのごとき混沌と動亂の世界である。

七

「凡てのものは、嘗て一所にあつた。その時、精神入り來りて、これをかたどつた」(アタクサゴラス)これは實に希臘哲學史上、目的論的世界觀の創始者アタクサゴラスの宣言である。混沌は、常に、始めか、然らずんば終りである。而して混沌にして意味あるも

のたらんと欲する限り、そは始めでなければならぬ。而して之が始めたらんと欲する限り、そは常にこれをかたどり、これを整へ、これに秩序を齎らす理性、精神を必要とする。精神無き混沌は、終に、死滅没落である。混沌たる亞細亞は、かくして、その没落を欲せざる限り、これに秩序を與ふるかたどりの精神を必要とする。

而してこの亞細亞のかたどりの精神こそ實に、日本、正しくは、皇國日本に外ならぬ。

八

蓋し、若し日本に將に著しき特色ありとすれば、そは實にその二千數百年の歴史を貫いてその實現し實證し來れる崇高透徹の秩序の精神である。日本精神の發展そのもの、跡を深く尋ねても見よ。そこに我等の見出すところは、實に嚴密正確なる律動の秩序である。而して特に、日本精神の永遠の意志として、その永遠に創造し實現しつゝある「皇國」の理想である。

蓋し、皇國とは、申すまでもなく「すめらみこと」の知らしめす國の謂である。然るに「すめらみこと」とは「すぶるみこと」を意味し、「すぶるみこと」とは、「すべてを一つにまとむるみこと」を意味する。従つて皇國とは實に、雑多の統一者、——即ち天皇——に依る全體的國家、一致團結統一結束國家の謂に外ならぬ。これ實に、畏くも教育勅語に「我皇祖宗、國ヲ肇ムルコト宏遠ニ、徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ。我が臣民克ク忠ニ克ク孝ニ、億兆心ヲ一ニシテ、世々厥ノ美ヲ濟セルハ、是レ、我カ國體ノ精華ニシテ、教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス」と規定せられて、先づ我が國體構成の二要素として、肇國宏遠、樹徳深厚をその内容とする萬世一系の永遠の天皇と、此の天皇をその統一の原則とする忠孝一本の億兆國民の世々連綿の一致團結とを掲げられたる所以である。従つて若しこれを概念的に曰へば、皇國とは、實に永遠の原則に基く徹底的秩序國家の謂に外ならぬ。

かくして皇國の存在、皇國の實現は、實に、永遠不滅の秩序的意志、アナクサゴラスの所謂「精神」の嚴存を意味する。

然るに此の特に秩序の精神たる皇國を取りまく世界は、不思議にも嘗てその搖籃たりし、しかも今日その混沌の故に没落死滅の巖頭に彷徨しつゝある亞細亞の世界である。「……その時、精神入り來りて、これに秩序を與へぬ」昭和六年九月十八日、滿洲事變の世界史的意義は、於是實に昭々として天日の如く明かである。そは、實に、亞細亞混沌の世界に、これに、秩序を齎らし、以てこれをその没落死滅より救ふべく、皇國、秩序の精神が、その世界史的使命を遂行すべく、先づあの張家虐政下の暴戾、殘虐、亂雜、無秩序の滿洲にその堂々たる歩みの第一歩を印せるものであつたのだ。宜也、この皇國精神の權化たる皇軍の揮ふ創建の劍の下に滿洲王道國家の建設を見るに至れること。

而してこれ實に、また、極力、日本の亞細亞大陸進出を阻止せんと策せるリットン調査團をして、事變前の状態に還元するの不可能なるを認識せしめ「單なる原狀回復が問題の解決たり得ざるは、如上、吾人の述べたる所に依り明かなるところ、現在の抗爭が去年九月以前に存せる状態より生起せるものなるが故に、此の状態の恢復は、紛糾の繰り返しを招來するに過ぎざるべし」と曰ひ、また繰り返し「既述の如く一九三一年九月

以前の狀態への復歸の如きは思ひも及ばざる所也」(第九章)と誌るさしめた所以である。

九

然るにそれにも拘らず、リットン報告書は、極力滿洲王道國家の存立を無視し、能ふべくんば、これが解消を策し、「滿洲に於ける現政權の維持及び承認は、等しく不満足也」(第九章)との見解を固執し、それ自身の解決案として、次の如き試案を提言してゐる。

日支兩國の代表者に二名の滿洲在住民代表者を加へて建言會議(Advisory Conference)を開き、その議を経て東三省特別政權を設立し、これを支那中央政府の主權の下に置き、その外交關係、關稅、郵稅、鹽稅、酒煙草稅等の管理權、及びその初代統治者の任命權はこれを支那中央政府の權限に屬せしめ、進んで多數の僱外人に依りて、その内容の充實改善の實を擧げ、治安維持の爲めには、特別憲兵制度を確立し、これが完成と共に日支兩國の一切の軍隊を撤退せしめ、最後に、日本の滿蒙における特殊權益は、これを、

更めて締結せらるべき日支條約によりて、規定確保さるべきものである(第十章)

10

前述、リットン報告書の提案にかゝる滿洲問題解決試案に明かなるが如く、リットン報告書は、滿洲における秩序の確立と、これに伴ふ將來の繁榮を、支那中央政府の主權の下に、期待せんとするものである。換言すれば、滿蒙における秩序の源を、支那中央政府に仰がんとするものである。

併かも滿蒙における秩序の源泉を、支那中央政府に仰ぎ得るがためには、支那中央政府は、秩序の源泉たるべき實を備へておらねばならぬ。

然るに支那の現状は、既述の如く、凡そ秩序の反對である。

かくしてリットン報告書にして、皇國の理想、皇國の軍隊による秩序の創建を排斥せんと欲する以上、そは必然、無理やりにも支那中央政府を、秩序の源泉たらしむべく細工工夫せざるを得ない。然るに、支那は自力を以てしては到底秩序を創建し得ざるもの。

於是、リットン報告書は支那に於ける秩序確立を目的として彼等の所謂「國際協力」を提言し來つた。

「支那における現在の政治的不安定が、日本との和親に對する障害にして且つ自餘一切の世界に對する不安なるのみならず、極東に於ける平和の維持が國際的關心事たり、また既述の條件が支那における強力なる中央政府無くして満たされ得ざるものなる以上、満足なる解決に對する最後の要件は、實に、支那の内部改造に對する一時的國際協力である」(第九章「支那の改造に對する國際協力」)。この言葉に依りて白日の如く明かなる事實は、リットン報告書が日支紛争事件解決最後の鍵を、實に「國際協力」に依る支那の内部再建に求めてゐることである。而して彼等の所謂「國際協力」がいかなる内容のものたるかは報告書第十章第一節中の一齣が、殆んど問はず語りに之を暗示してゐる。即ち報告書は、支那の主權下におけ東三省特別政權の樹立に關連し、外國人の貢獻を高調し、次いで左の言を爲してゐる。"But it cannot be too strongly emphasized that the presence of the foreign advisers and officials here suggested, including those who during the period of the organization of

the new regime, must exercise exceptionally wide powers, merely represents a form of international cooperation." 「併かも我等が特に強調せんと欲するところは、茲に提議せる外國人顧問及び官吏(新政權組織期間中の異常に廣汎なる權限を行使する者を含む)の存在は、單に國際協力の一形式を表現するに過ぎざるものなること」と。

文章の措字は、いかにもあれ、こゝに「國際協力」の實質的内容が實に「異常に廣汎なる權限を行使する外國人顧問及び官吏」に依る統治——換言すれば國際管理——であることは、火を靚るよりも明かである。

かくして聯盟調査委員會が、滿洲問題解決の最後の鍵としてその懐深く藏する所は、實に、支那全土に亘る國際管理の意圖に外ならない。

かくしてこれを極めて客觀的且つ論理的に検討し來る時、聯盟調査報告書の意圖する所は、主として歐羅巴を以て成る國際聯盟をして、滿洲に關し、その日本に拒否する所のものを、自ら全支那の領域に亘りて、受用せしめんとするものである。これを端的率直に曰へば全亞細亞を歐羅巴及びアメリカの管理下に置かんとするものなのである。

而して此事は、決して啻に、リットン報告書の意圖たるに止まらない。之は寧ろ、リットン報告書の背後に潜む歐羅巴精神そのもの、意圖なのである。

然るに現代支那の少數權力者は、此の全支を擧げて、歐米に隸屬せしめんとする歐羅巴の意志の前に屈服し、終日これに阿附迎合して日も是れ足らざるの醜陋を敢てしつゝある。

一一

我等を以てこれを見れば、自ら稱して「中國國民黨」と呼ぶ現代支那の篡奪者は、全亞細亞に取りて不幸此の上もなき、その自ら蒞ける禍の種子、排日侮日の精神の結實を、今日正に呪はしき旋風の形において自ら蒞り取らざるを得ざる窮境に陥り、併かもその自ら招ける當面の困難を塗糊回避せんとして、實に、全支、全亞の國土を擧げて、歐米管理の手に委ねんとしつゝあるもの、かくてこれを支那より見れば、無上の賣國、これを全亞細亞より見れば、未曾有の裏切りを敢てしつゝあるものである。その胸奥に

猶ほ、高古の精神的傳統の誇持を藏する支那無名の愛國者は、正に此の天人共に許さざる不忠の事實を正視すべきであり、その心胸に依然として雄渾博大なる亞細亞精神の鼓動を禁じ得ざる亞細亞の志士は、此の歴史あつて以來、未だ曾てあらざりし全亞細亞の危機にその心眼を開くべきである。

一二

國際聯盟、アメリカ、ソキエト・ロシヤ……此の一聯一貫の歐羅巴精神に依る全亞細亞篡奪の危険に直面せる今日、神聖亞細亞の獨立と自由とを擁護恢復する唯一の道は、實に一日も早く全亞細亞聯盟を結成し長養するにある。皇國日本は、如此洞察に導かれて、今や毀譽褒貶成敗利鈍に超越して、一路、此の亞細亞掩護の大業に向つて勇往邁進しつゝある。「道德仁愛を以てその建國の精神とする王道主義的滿洲獨立國家の建設、これが日本に依る承認、日滿議定書の交換等、一聯の事行は、實に全亞細亞聯盟結成への第一歩に外ならぬ。事の皇國日本に關する限り、骸子は既に投げられたるもの、皇國日本は

今や支那國民の眞偽、明闇、向背如何に拘らず、忠實に、その亞細亞の一員たる當然の職責を遂行し、以てその亞細亞に對する報恩の行を完ふすべく、敢然として全支保全、全亞掩護の世界史的使命に忠順ならんことを誓へるものである。

一三

併かも此の皇國日本の使命たる全亞掩護の大業は、云ふまでもなく支那四億の無名の愛國者と全亞の志士仁人の協力無くして、決して容易に完ふし得らるるものではない。否、全亞の興隆は、日滿兩國にその先例を見るが如き、全亞の覺醒と自覺と而して堅き結束團結ありて、始めて可能である。

これ實に、全亞細亞の傳統的精神たる、仁愛の心に基きて、亞細亞聯盟の結成を具現し、以て、混沌動亂の今日の亞細亞の狂瀾をその既倒に回へし、これをその覆滅の域に救はんがために、こゝに大亞細亞協會の結成を見るに至れる所以である。

一四

かくして大亞細亞協會は、亞細亞精神に固有なるところの愛の心に基き、「皇國」に横溢する秩序の精神に則り、全亞細亞の保全、恢弘、興隆のために、大亞細亞聯盟の實現を期するもの、全亞細亞の志士仁人の來つて共に、相結び、互に肱を執り、手を携へて此の振古の大業に協同せんことを希望するものである。

昭和八年二月二十六日印刷
昭和八年三月一日發行

定價十錢
送料二錢

著者 鹿子木員信

東京市麴町區內幸町一丁目大阪ビル三三二號
大亞細亞協會

發行者 中谷武世

東京市神田區錦倉町五番地

印刷者 新倉東文堂

不許
復製

東京市麴町區內幸町一丁目大阪ビル三三二號室

發行所

大亞細亞協會

終

